

リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	地域協働まちづくりリサーチセンター
センター長名	大貝 彰
設置の時期	平成17年 4月 1日
報告書作成日	平成22年 8月31日

1. 設置の目的

地域協働まちづくりリサーチセンターは、「安全に安心して暮らせる持続可能な建築・都市・地域づくり」に関する先進的な統合学術研究拠点として、災害と環境に対する危機管理を含め、地域との連携による基盤技術及び応用技術の研究開発、新規学術分野の開拓等を通し、当該分野の研究推進とその実践・成果還元・人材育成等の社会貢献を担うことを目的とする。

2. 設置後の研究成果

1) 本センターは、その前身である「地域防災リサーチコア」の研究活動を引き継ぎ、東三河地域防災研究協議会の受託研究（平成21年度末までに16件実施済、現在3件が継続中）を実施し、その成果の一部は、大学から協議会への提言書としてまとめられ、地域防災対策への貢献を果たしてきた。

2) 平成18年度からは文部科学省特別経費連携融合事業「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」を愛知大学との協働で、地域の公共的団体と連携して研究会を組織し推進中である。平成20年度末までに、査読付き原著論文58件、口頭発表等100件超が本事業による研究成果として発表され、また当該事業に関わる研究テーマで4名の博士号取得者が生まれている。さらに講演会、公開シンポジウムを開催し、個々の研究成果の地域への情報発信と還元に努めるとともに、三遠南信地域の関係諸団体や学会等との連携による研究成果の共有を図ってきた。

3) またセンター独自の地域協働型の自主研究活動も推進し、豊橋市二川地区や豊川市門前町のまちづくり支援など地域社会貢献の成果も挙げている。

個々の具体的な研究成果は、平成17年度～20年度のセンター年報、連携融合事業については平成18年度～平成21年度の研究成果報告書、及び平成21年6月付けの本事業の中間評価書にまとめられている。

3. 今後の研究計画及び期待される効果

最終年度の連携融合事業は、地域の自治体等に向けては個別研究成果を基盤にした三遠南信地域をインキュベーションサイトとしたエコ地域づくり戦略プランの政策提言書を、また学術的には最終研究成果報告書を作成し、今年度末開催予定の公開シンポジウムで広く成果の普及を図る。研究成果と政策提言は、県境を跨いだ広域連携地域づくりの先進的取組みを実践してきた三遠南信地域における中山間地域を活かした自然資源の循環モデルと流域定住推進モデルの形成にかかる今後の具体的な事業に反映され、当該流域生活圏の自立的発展に寄与すると確信している。

地域防災研究は、本センターと東三河地域防災研究協議会のより緊密な連携を図り、地域密着型防災研究の充実と社会貢献を果たしていく。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。